

ウニードス・ダ・チジューカ 2013 年

稲妻とともに落ちた轟雷—不思議の国ドイツへの旅にソー神が誘う

ウニードス・ダ・チジューカは、「ブラジルにおけるドイツ年」である 2013 年に、ドイツ文化の魅力のすべてと、その人類史上における重要性を披露します。世界有数の大国であるドイツの貢献は、科学技術、芸術文化を含め、実質的に全ての知識分野にまたがるものです。ブラジルとドイツとの出会いを祝福し、このお祭り騒ぎで通りを一気に占拠するべく、一閃の雷光が会場を駆け抜け、遠く離れた 2 つの世界を近づけます。オーディン神は息子である強き神ソーに、キリスト教化以前の魔法の時代の存在、ドワーフや巨人、竜や小鬼、エルフやノームをサブカイへと引率し、ドイツの影響力の程を示すよう命じます。これら有名なキャラクターたちは、今日に至るまで様々な芸術作品の着想の源となっています。黒き森シュヴァルトツヴァルトに棲む者たちは、人の想像の中に遊び、興味をかきたて、予言や秘儀の根本となり、神々のみが統制できる、謎めいて混濁した想像の世界を作り上げました。北欧神話におけるキャラクターたちは、ドイツにいたって拡充され、神々と人々との間の物語を盛り上げる題材となりました。

このようなドイツのたくましい想像力は、世界中の作家たちの発想源となる、革新的な作品を生み出し、芸術文化の天才の殿堂に名を連ねる巨匠たちを輩出しました。ベートーベンの交響曲、物乞い、極悪人、売春婦、詐欺師が登場するベルトルト・ブレヒトの批判的演劇、ゲーテの文学、かなわぬ夢をかなえるために悪魔に魂を売る、ファウストの神曲。1930 年代のドイツ映画で言えば、煙の中に誘惑と楽しみが漂う典型的なキャバレーを描いた『嘆きの天使』が挙げられます

このたくましい想像力はどこから生じたものなのでしょうか？我々の幼少期にお馴染みの想像上の場所やキャラクターは、世界中、全ての言語で書かれた本のページに見られますか？昔々あるところに、、、「時」までもがあたらしい遊びを飽かず生み出し続ける、一生を遊んで過ごす術があったとか。子供を喜ばせるために、小さなキャラクターや道具が配置されたり撤去されたりする、あれやこれやの街や場面や情景を創り出す、その瞬間を生み出したのは誰なのでしょうか？

発明家は、変革を促す、単純な解決策や革新的な方法を発見します。手書きという制約にとらわれていた言葉を敢えて解放し、印刷物へと変革し、多くの人々の手が届くものになりました。それによって、伝達の速度が向上し、発展の可能性が広がりました。車にエンジンを搭載し、ロケットのように、稲妻のように素早く動かして見せました！新技術や新発見は、我々を新しい場所へと移動させ、新しく作られた、計画された未来を支配します。

さて、今や一瞬のうちに移動できるこの遠い大地に、より早くやってきて困難に立ち向かった人々は？移民たちはここに、彼の地の趣向をもたらしました。ドイツの農産物を植え、飲み、食べています。そして、全てが混交するこの国で、それらすべてが混交しました。さあ、通りに雷鳴が鳴り響き、そして今年是一年中最も雷が落ちて、このブラジル流のやりかたでドイツを祝福するのです！

イザベウ・アゼヴェード、シモーニ・マルチンス、アナ・パウラ・トリンダーヂ、パウロ・バホス

サンバ・エンヘッド

作：ドウドウ、エウソン・ハミレス、ジュリオ・アウヴェス、トニーヨ

稲妻が空を切り裂き
ボレウを横切る、そして雷鳴
光の速さで現れるのは、オーディンの息子
魔法の力に包まれたドイツを紹介する
不滅の世界の空想の中に
そこに暮らす者たち、私のカーニバルの魔法
森から現れる視線
宙を舞う謎
愛しのチジューカ、私の生きる理由
人々を揺り動かし、感動を湧き起こし
私の心をかきたてる

映画館で輝く天使、そして夢見る
詩に表現されて、不朽の存在となる
交響曲のように、ドイツの贈り物が
文明にもたらされる

想像の世界で、昔々、、、
おとぎ話、魔法の王国で
幸せな子供時代、それは誰の手によるもの？
その幻の中で私は子供の姿を見た
おもちゃを手にして、城を立ち上げるのを
人類の精神活動は解放される
大発明家が目覚める
時を動かし、そして命を
回るエンジンに換える
ブラジルとドイツは「連合」する
旗、文化、知識、
今年も1年雷が響く、記憶に刻むために

ソー神が私を呼ぶ、なんと幸せなことか
この街にもたらされる贈り物、それは祝祭
私の心の半分はチジューカ
もう半分も同じ